



## ～神奈川県高文連「高校生茶会」と伊志田高校の取り組み～

私たちは、コロナ禍を過ごしたことで、普通の日常の大切さ、ありがたみを思い知らされました。高校生茶会は、茶道部にとって年に一度の大切な大会です。制限はありましたが、一度も中止になることなく開催されたことに、ただただ感謝するばかりです。席持ち校として、きちんとした点前をする事はもちろん、客として参加した学校のこれから活動に、少しでも参考となるような新しいアイデアをと思って、毎年私たちなりの工夫をしてきました。

これからも伊志田高校らしい仕掛けをもって、高校生茶会に臨みたいと思います。

## 2020 第26回 テーマ「和敬清寂～心と心で繋ぐ～」 会場 県立川崎高校

コロナ禍でしたが、奇跡的に開催することができました。

各席で「和敬清寂」のテーマを一字ずつ受け持ち、

伊志田高校は「和」の席を担当しました。

「和」のクイズと景品を用意し、制限の多い日常を忘れ、少しでも和やかなひと時となるよう考えました。

「気兼ねなく旅行に出かけ、お友達と笑い合える、そんな日が早くおとずれることを期待して、」という席主の挨拶は、今思い出してもしんみりします。



## 2021 第27回 テーマ「笑窓～幸せを求めて～」 会場 県立藤沢西高校



和親棚という和モダンな棚で点前をしました。

伊志田高校がグローバル教育推進校だったこともあって、茶の湯とともに南蛮文化が栄えた、グローバルな桃山時代を現代に重ねてみました。

この年は、使っている道具をわかりやすく絵に描いて、会記がわりとしてお配りしました。



## 2022 第28回 テーマ「優遊」 会場 県立小田原高校



席が普通教室だったので、文化祭要素を取り入れました。

外の壁には小田原の街角フォトを貼り、席中には名物

「小田原提灯」を置いて、小田原をぶらりと散策する感じを演出しました。

個包装の菓子のために敷紙を作り、裏には「外郎壳」の口上も載せて、「小田原土産」となるようにしました。



## 2023 第29回 テーマ「出会いの和」 会場 慶應義塾高校



↑ 〈世界からようこそその道具たち〉

慶應での二度目の茶会は、ラウンジ席の担当になりました。今も昔も、アジアやヨーロッパから、道具や模様、技法を取り入れ、茶の湯の世界で調和しているということがわかるように工夫し、担当校で道具を持ち寄りました。

使用した道具がどこの国に由来するのか簡単な世界地図に記して、お持ち帰りいただきました。

## 2024 第30回 テーマ「慶祝」 会場 藤澤山遊行寺

記念行事ということで、遊行寺が会場になりました。

伊志田高校の高校生茶会での歩みを感じられるように、今まで使ったことのある道具をませて、今年はじめての道具と取り合わせました。

灰をふるい、炭を入れて、香をたくという、普段はできない体験もしました。

また、短い時間でしたが、東京都からお招きした高校生の皆さんと交流もでき、楽しい時間を過ごせました。





## 3月 茶道部紅白茶会

炭を入れて、炉の点前をするのは初めて。  
2組に分かれ、道具組も考えてお互いにおもてなしします。  
卒業生も来てくださいました。



## 6月 裏千家学校茶道茶会（相模）

2、3年生で参加しました。  
渚棚を使ってお点前もしました。  
2年生、校外での亭主・半東デビューです。



## 7月 裏千家学校茶道茶会（小田原）

2、3年生で参加しました。  
春に紅白茶会を行った茶室で、お点前  
しました。



## 9月 文化祭（宿志祭といいます）



ラプンツェルの世界観でしつらえました。  
お客様の数だけ、ランタン（茶券）が灯ります。  
(黒板！)

流れ星（饅頭）



## 10月 神奈川高等学校総合文化祭開会式



今年はお点前のデモンストレーションでした。  
開会式に来る生徒たちに、ふつうに呈茶できるようになるのはいつ？



青海波



## 11月 高校生茶会

「出会いの和」のテーマのもと、  
私たちの茶席では、アジアや  
ヨーロッパから取り入れた道具や  
模様、技法などの紹介をしました。  
「青海波」の模様もシルクロード  
を経てペルシャから飛鳥時代に伝  
わったといいます。